



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)／Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信／海外／債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

お客様各位

作成日:2016年8月25日

DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型) Aコース(円ヘッジあり)／Bコース(円ヘッジなし) 第67期決算 分配金のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
この度、ご投資いただいております「DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)Aコース(円ヘッジあり)及びBコース(円ヘッジなし)」は、2016年8月24日に第67期決算を迎え、Aコース(円ヘッジあり)、Bコース(円ヘッジなし)ともに分配金を前期より引き下げました。
※分配金引き下げの背景については2頁以降をご参照下さい。

次回決算は2016年9月26日を予定しております。
今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

Aコース(円ヘッジあり)

《第67期 分配金実績》
70円 (1万口当たり、税引前)

Bコース(円ヘッジなし)

《第67期 分配金実績》
100円 (1万口当たり、税引前)

《分配金実績の推移(1万口当たり、税引前)》

決算期 (年/月)		第1期 - 第25期 2011/2 - 2013/2	第26期 - 第35期 2013/3 - 2013/12	第36期 - 第66期 2014/1 - 2016/7	第67期 2016/8
分配金実績	Aコース (円ヘッジあり)	70円	90円	90円	70円
	Bコース (円ヘッジなし)	80円	100円	120円	100円

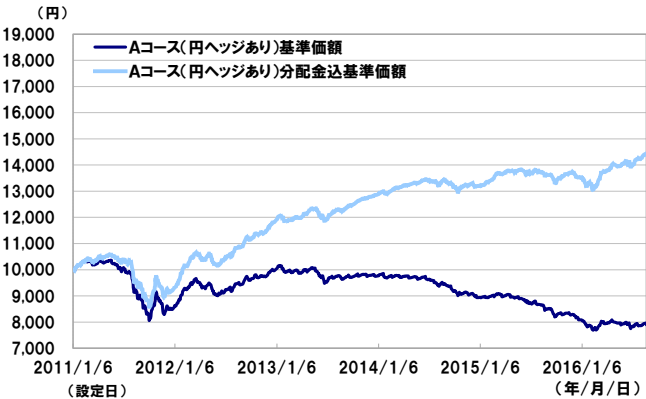
※分配金の実績は、将来の分配金の水準を保証もしくは示唆するものではありません。
※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払されない場合があります。
※収益分配金については、後記「収益分配金に関する留意事項」をご参照下さい。

【ご参考】 設定来の基準価額の推移 2011年1月6日(設定日)～2016年8月24日

2016年8月24日の基準価額

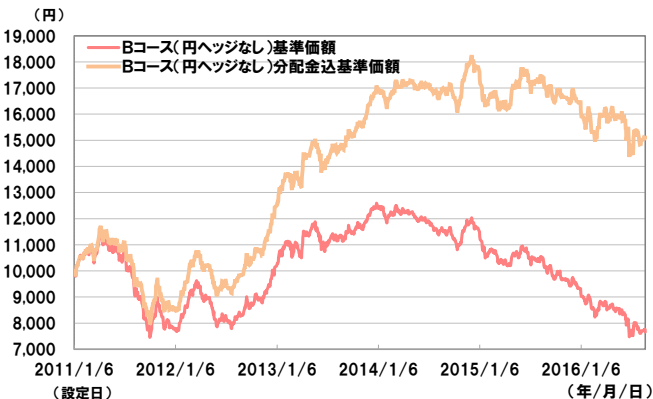
Aコース(円ヘッジあり)基準価額:7,897円

Aコース(円ヘッジあり)分配金込基準価額:14,441円



Bコース(円ヘッジなし)基準価額:7,657円

Bコース(円ヘッジなし)分配金込基準価額:15,124円



※基準価額の推移は、信託報酬控除後の価額を表示しております。
※分配金込基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
※過去の運用実績は、将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)/Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

■ 分配金引き下げの背景

当ファンドではユーロ建のハイ・イールド債券(ユーロ・ハイ・イールド債券)を主要投資対象としており、Aコース(円ヘッジあり)はユーロ・ハイ・イールド債券から得られる収益を、またBコース(円ヘッジなし)はユーロ・ハイ・イールド債券から得られる収益に加え、ユーロ/円の為替差益を主な収益源泉として、分配金をお支払いしています。

各コースの直近1年の基準価額と、ファンドの運用成果を表す分配金込基準価額の騰落率を比較すると、Aコース(円ヘッジあり)では基準価額は約9%の下落となったものの、分配金込基準価額がプラス水準となっています。また、Bコース(円ヘッジなし)については欧州中央銀行(ECB)の追加金融緩和策等の影響を受けユーロ安が進んだことで分配金込基準価額の騰落率はマイナスとなり、一方で基準価額は約24%と大幅下落となりました。

なお、基準価額そのものはAコース(円ヘッジあり)、Bコース(円ヘッジなし)共に7,000円台となっています。

【図表】基準価額と分配金込基準価額の騰落率の比較
(基準価額は2016年7月29日時点、騰落率は2015年7月31日と2016年7月29日の比較)

	基準価額	基準価額 騰落率	分配金込基準 価額騰落率	騰落率の乖離
Aコース (円ヘッジあり)	7,862円	-9.3%	3.6%	-13.0%

	基準価額	基準価額 騰落率	分配金込基準 価額騰落率	騰落率の乖離
Bコース (円ヘッジなし)	7,852円	-24.3%	-11.1%	-13.2%

この様な状況の中、基準価額の水準や運用状況等を総合的に鑑み、今期において分配金水準の見直しを行い、各コースの分配金(1万口当たり、税引前)を前期水準より20円引き下げました。

【図表】基準価額と分配金込基準価額、分配金累積額の推移
期間:2011年1月6日(設定日)~2016年7月29日、日次

<Aコース(円ヘッジあり)>



<Bコース(円ヘッジなし)>



※基準価額の推移は、信託報酬控除後の価額を表示しております。
※分配金込基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。
※過去の運用実績は、将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)/Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

■ ユーロ・ハイ・イールド債券市場について

原油価格の反発等を材料に、3月以降のユーロ・ハイ・イールド債券市場は堅調に推移しました。

実際に6月上旬には、欧州中央銀行(ECB)の追加金融緩和策が本格始動となる中、指数ベースで最高値を更新するかたちで上昇基調を示していました。6月末には英国の欧州連合(EU)離脱に向けた動きを材料にリスク資産全体が影響を受けたものの、ユーロ・ハイ・イールド債券市場は以下に挙げる要因により下支えされ推移しています。

【プラス要因①: ユーロ圏の緩やかな景気回復が継続】

期待インフレ率は依然として低位で推移しているものの、ユーロ圏は内需主導で緩やかな成長が継続しており、実質GDP成長率(前期比)は13四半期連続のプラスとなっています。今後も雇用所得環境の改善を受けて緩やかな拡大となることが期待されます。イタリアやスペインのみならず、フランス等においても労働市場等における構造改革は継続しており、域内における銀行貸出や各企業の設備投資等のさらなる改善も期待されています。

【プラス要因②: ECBの追加金融緩和策が市場の下支え要因に】

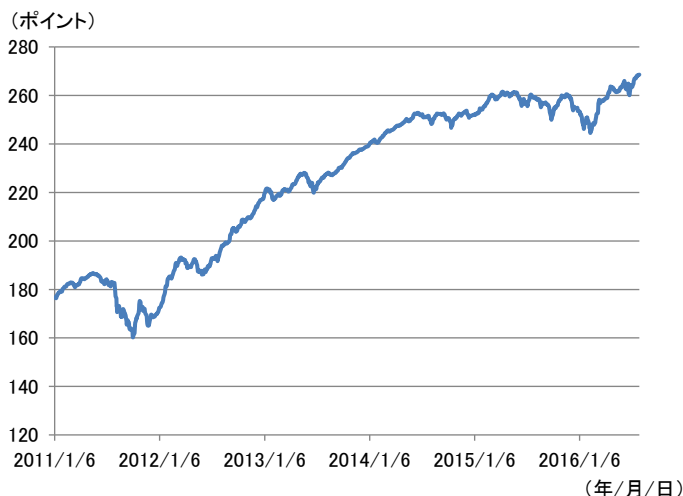
ECBは2016年3月に月額の資産購入額を600億ユーロから800億ユーロに拡大し、対象資産に投資適格社債を含めることを決定、6月から購入を開始しました。これらに加えて、条件付きの長期リファイナンスオペや、中銀預金金利におけるマイナス金利の導入等、ECBは積極的な金融緩和姿勢を続けています。このようなECBの追加金融緩和策は、ユーロ圏景気の押し上げに今後も寄与すると考えています。

【プラス要因③: 魅力的な利回りの高さが引き続き投資妙味に】

主要国の中央銀行が金融緩和策を継続する中、各国の国債利回りは歴史的な低水準で推移しています。英国のEU離脱の選択を受けた世界景気の先行き不透明感等もあり、米連邦準備制度理事会(FRB)は利上げに対しより慎重に判断していく等、世界的な低金利環境が今後も継続するものと思われます。企業ファンダメンタルズは安定していることから、相対的な利回りの高さが魅力となってユーロ・ハイ・イールド債券市場への資金流入につながることが期待されます。

【図表】ユーロ・ハイ・イールド債券指数
(現地通貨ベース)の推移

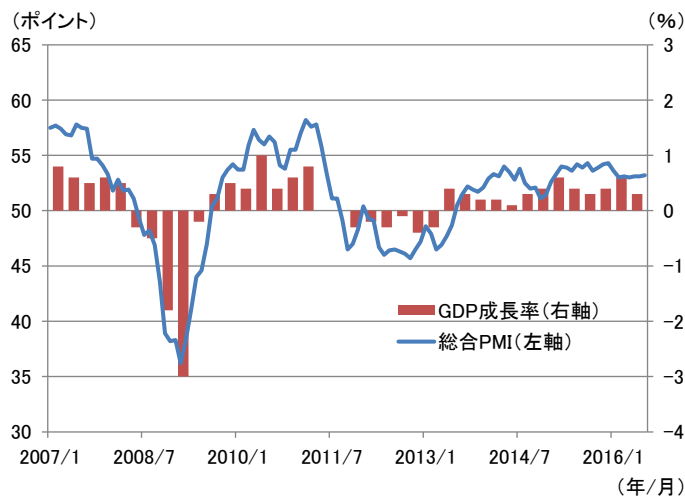
期間: 2011年1月6日～2016年7月31日、日次



出所: BofA Merrill Lynchのデータを基にドイチェ・アセット・マネジメント(株)が作成

【図表】ユーロ圏総合PMI*とGDP成長率(前期比)の推移
総合PMI: 2007年1月～2016年7月、月次

GDP成長率: 2007年第1四半期～2016年第2四半期



出所: Bloombergのデータを基にドイチェ・アセット・マネジメント(株)が作成

* 総合PMIは購買担当者景気指数と呼ばれ、景気の先行きを示す指標のひとつ。50を上回ると景気拡大、50を下回ると景気後退を示す。



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)/Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

■ ユーロ・ハイ・イールド債券市場の今後の見通しについて

英国のEU離脱に向けた動向が懸念されるものの、ユーロ・ハイ・イールド債券市場については、引き続き堅調に推移するものと見込まれます。

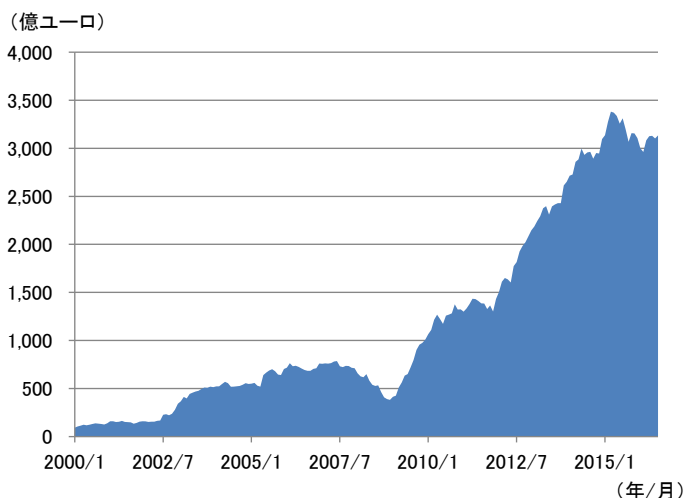
ユーロ・ハイ・イールド債券市場については、ECBの社債購入を含めた追加金融緩和策の継続や、相対的に高い利回りに着目した投資家の資金流入等が見込まれることはプラス材料と考えられ、長期的には底堅く推移すると見ており、割安度が増した局面においては投資機会として捉えていきます。一方で、英国のEU離脱選択や、今後の米国の金融政策動向等は市場の変動要因と考えられ注意が必要です。

ユーロ・ハイ・イールド債券市場は新発債の供給量が増加し、その規模は年々拡大傾向にあります。2016年7月末時点の時価総額は約3,100億ユーロと過去に比べ大きく増加しています。

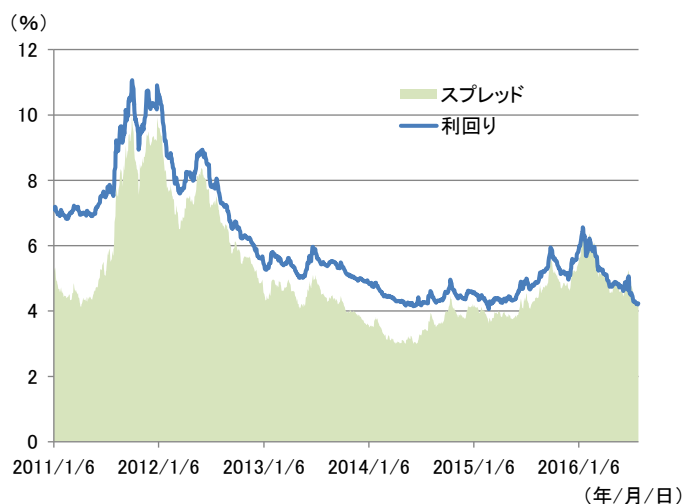
国債利回りが大幅に低下する中で相対的に高い利回りを求める投資家サイドのニーズ、そして低金利環境が継続する中で発行コストを抑制した形での資金調達を求める発行体サイドのニーズ、双方がサポート材料となり、ユーロ・ハイ・イールド債券市場を下支えるものと考えています。

なお、今後の運用方針としては、引き続き欧州域内における内需の拡大を見込んでおり、消費財やサービス、メディア等のセクターを中心に投資を行い、中国・新興国の影響を受けやすいエネルギーや自動車セクターへの配分は抑える予定です。格付別では、相対的に割安感が見られるB格を中心に組み入れる方針に変更はありません。

【図表】ユーロ・ハイ・イールド債券指数
(現地通貨ベース)の時価総額の推移
期間:2000年1月~2016年7月、月次



【図表】ユーロ・ハイ・イールド債券指数
(現地通貨ベース)の利回りとスプレッドの推移
期間:2011年1月6日~2016年7月31日、日次



出所: BofA Merrill Lynchのデータを基にドイチェ・アセット・マネジメント株式が作成

データは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

【当資料で使用する指数等に関する留意事項】

ユーロ・ハイ・イールド債券: The BofA Merrill Lynch Euro High Yield Constrained Index

※ The BofA Merrill Lynch Euro High Yield Constrained IndexはBofAメリルリンチの指数であり、同社の許可を得て使用しています。BofAメリルリンチは同社の指数を現状有姿のまま提供しており、いかなる担保責任も負わず、関連するデータを含め、その適合性、品質、正確性、適時性、完全性を保証せず、またその使用に関しいかなる責任も負いません。また、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社およびその商品やサービスについて、後援、支持、推奨するものではありません。



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)/Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

■ 短期金利・為替(対円)の見通しについて

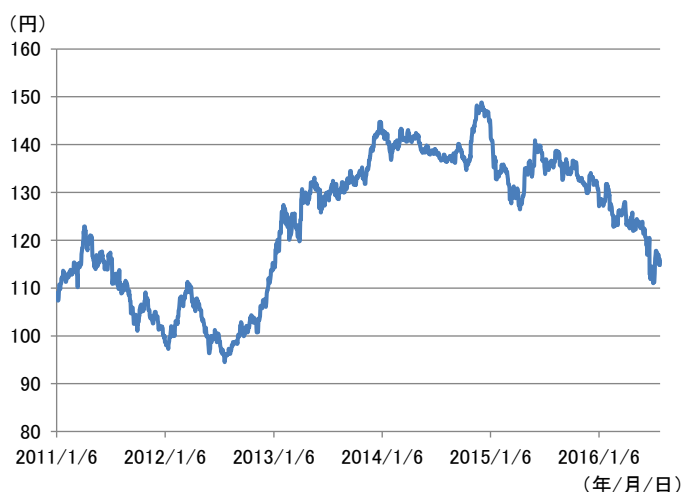
<ユーロ>

金利: ECBによる強力な金融緩和策を受けて、当面は低金利環境が継続することが見込まれます。中国・新興国景気に対する不透明感も残存しており、英国のEU離脱に向けた動向も市場の懸念材料として想定されることから、欧州の緩やかな景気回復に伴う金利上昇はある程度抑えられるものと見ています。

為替: 各国の金融政策をめぐる憶測や、欧州における政治的不透明感等から変動性が高まる可能性があるものの、日本銀行の金融緩和策の継続を背景に、長期的にはユーロ高/円安の流れが進むものと見ています。一方で、短期的にはECBの強力な金融緩和策が上値を抑える要因となる見通しです。

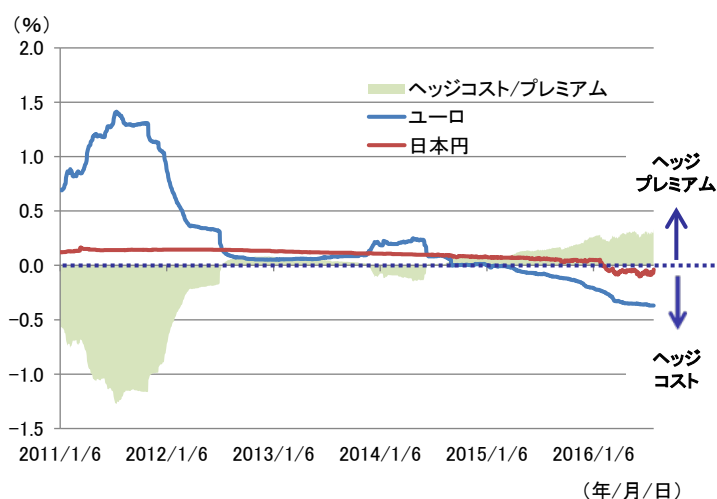
【図表】ユーロ(対円)の推移

期間: 2001年1月6日～2016年7月29日、日次



【図表】ユーロ、日本円の短期金利の推移

期間: 2011年1月6日～2016年7月29日、日次



※ ユーロ、日本円の短期金利は1カ月Libor。

※ 上記ヘッジコスト/プレミアム(ユーロと円の金利差)は、簡便法によるシミュレーションであり、実際の数値とは異なります。

出所: Bloombergのデータを基にドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成

※ データは記載時点のものであり、将来の傾向、数値等を保証もしくは示唆するものではありません。

【ご参考】分配金の内訳について

<Aコース(円ヘッジあり)>

	第62期 2016年3月	第63期 2016年4月	第64期 2016年5月	第65期 2016年6月	第66期 2016年7月	第67期 2016年8月
当期分配金(税引前)	90円	90円	90円	90円	90円	70円
(対基準価額比率)	1.121%	1.110%	1.128%	1.129%	1.132%	0.879%
当期の収益	-	-	90円	90円	90円	70円
当期の収益以外	90円	90円	-	-	-	-
翌期繰越分配対象額	3,223円	3,279円	3,337円	3,395円	3,455円	3,535円

<Bコース(円ヘッジなし)>

	第62期 2016年3月	第63期 2016年4月	第64期 2016年5月	第65期 2016年6月	第66期 2016年7月	第67期 2016年8月
当期分配金(税引前)	120円	120円	120円	120円	120円	100円
(対基準価額比率)	1.361%	1.360%	1.416%	1.470%	1.502%	1.289%
当期の収益	-	-	114円	115円	116円	100円
当期の収益以外	120円	120円	5円	4円	3円	-
翌期繰越分配対象額	4,585円	4,582円	4,578円	4,575円	4,573円	4,591円

※ 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

※ 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金(税引前)と一致しない場合があります。

※ 過去の運用実績は、将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)/Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

ファンドの特色

- 1 当ファンドは、Aコース(円ヘッジあり)とBコース(円ヘッジなし)があります。

(注1)販売会社によっては、Aコース、Bコースどちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。

(注2)各ファンド間でのスイッチングの取扱いには販売会社により異なります。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。

- 2 各ファンドは、DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンドへの投資を通じて、ユーロ建の高利回り社債(以下「ハイ・イールド債券※」)といえます。)等を実質的な主要投資対象とし、インカム・ゲインの獲得と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

※「ハイ・イールド債券」とは、一般的にS&P社においてはBB格相当以下、Moody's社においてはBa格相当以下の格付を付与されている高利回り社債のことを指します。“投資適格債券と比べて、信用力が低く債務不履行(デフォルト)に陥る可能性が高い”と評価されている分、その見返りとして、満期償還までの期間が同じ投資適格債券よりも、一般に高い利回りで発行・取引されます。

- 3 各ファンドはファンド・オブ・ファンズ的方式で運用を行います。

「DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンド」の特色

●主に欧州諸国のユーロ建のハイ・イールド債券等に投資し、高水準のインカム・ゲインの獲得とファンド資産の中長期的な成長を目指します。

●投資対象には、ユーロ圏以外の国・地域の企業が発行する債券等も含まれます。

●ユーロ建以外の資産へ投資を行う場合は、当該ユーロ以外の通貨売り、ユーロ買いの為替取引を行うことを原則とします。

●ドイチェ・アセット・マネジメント・インベストメントGmbHが運用を行います。ドイチェ・アセット・マネジメント・インベストメントGmbHはドイツ銀行グループの資産運用部門(ドイチェ・アセット・マネジメント)のドイツにおける拠点です。グローバルなネットワークを駆使し、投資家の多様なニーズに応える商品開発と優れた運用実績の実現を目指します。

※ DWS ユーロ・ハイ・イールド・ボンド・マスター・ファンドは、ユーロ建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行うユーロクラスと対円での為替ヘッジを行わないユーロクラスの円建投資信託証券を発行します。

※ 各ファンドは、主要投資対象とする投資信託証券の他に、「DWS ユーロ・リザーブ・ファンド(ルクセンブルグ籍ユーロ建外国投資信託証券)」にも投資します。

- 4 毎月決算を行い、収益分配を行います。

●毎月24日(当該日が休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づき収益分配を行います。

●分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

(注)市況動向及び資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元金が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。当ファンドに生じた利益及び損失は、すべて投資者に帰属します。基準価額の変動要因は、以下に限定されません。なお、当ファンドは預貯金と異なります。

①信用リスク

債券価格は、発行者の信用状況等の悪化により、下落することがあります。特に、デフォルト(債務不履行)が生じた場合または予想される場合には、当該債券の価格は大きく下落(価格がゼロとなることもあります。)し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。特に、当ファンドが実質的に主要投資対象とするハイ・イールド債券等の格付の低い債券は、格付の高い債券と比較して、一般的に信用度が低く、発行者の信用状況等の変化により短期間に価格が大きく変動する可能性やデフォルトの可能性が高いと考えられます。

②金利変動リスク

債券価格は、通常、金利が上昇した場合には下落傾向となり、金利が低下した場合には上昇傾向となります。したがって、金利が上昇した場合には、保有している債券の価格は下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。特に、当ファンドが実質的に主要投資対象とするハイ・イールド債券の価格は、こうした金利変動や投資環境の変化等の影響を大きく受け、短期間に大幅に変動する可能性があります。

③為替変動リスク

<Aコース>

ファンドの実質的な保有外貨建資産(ユーロ建資産)について、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に対円での為替ヘッジを行うことができるとは限らないため、ユーロの対円での為替変動の影響を受ける可能性があります。また、ユーロと円との金利差等が反映されたヘッジコストがかかり、基準価額の下落要因となることがあります。

<Bコース>

ファンドの実質的な保有外貨建資産(ユーロ建資産)について、原則として対円での為替ヘッジを行わないため、ユーロの対円での為替変動の影響を受けます。したがって、為替相場がユーロに対して円高になった場合は、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

④カントリーリスク

投資対象国の政治、経済情勢の変化等により、市場が混乱した場合や、組入資産の取引に関わる法制度の変更が行われた場合等には、有価証券等の価格が変動したり、投資方針に沿った運用が困難な場合があります。これらにより、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

⑤流動性リスク

急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できないことがあります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

その他の留意点

■各ファンドの資産規模に対して大量の購入申込み(ファンドへの資金流入)または大量の換金申込み(ファンドからの資金流出)があった場合、基準価額の変動が市場動向と大きく異なる可能性があります。

■当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)/Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

収益分配金に関する留意事項

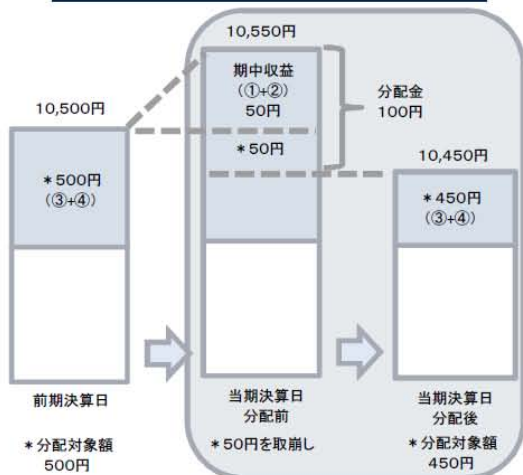
●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



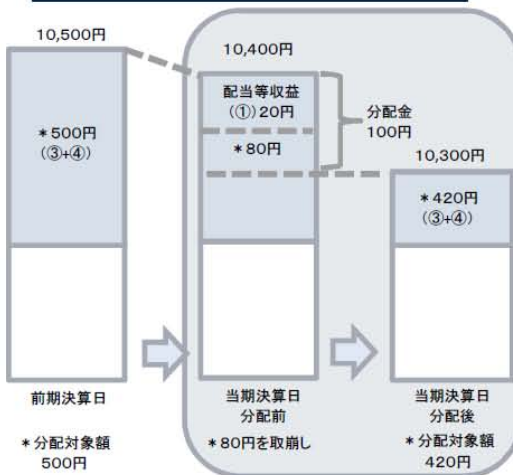
●分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



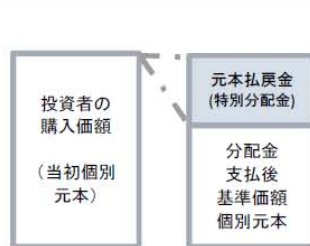
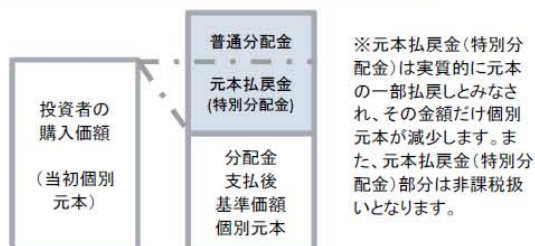
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益及び②経費控除後の評価益を含む売買益並びに③分配準備積立金及び④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照下さい。



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)/Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

お申込みメモ

申込締切時間/ 購入・換金申込 受付不可日	原則として、販売会社の営業日の午後3時までに購入申込み・換金申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分として取扱います。ただし、フランクフルトの銀行休業日またはルクセンブルクの銀行休業日に該当する日には、受付を行いません。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
信託期間/ 繰上償還	信託設定日(平成23年1月6日)から無期限 ただし、各ファンドについて残存口数が10億口を下回ることとなった場合、受益者のために有利であると委託会社が認める場合またはやむを得ない事情が発生した場合には、信託を終了させていただくことがあります。
決算日	原則として毎月24日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	年12回の毎決算時に、信託約款に定める収益分配方針に基づいて行います。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。 (注)将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社においてお支払いします。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 原則として、分配時の普通分配金並びに換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して課税されます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 (注)法人の場合は税制が異なります。税法が改正された場合等には上記の内容が変更されることがあります。

ファンドの費用

時 期	項 目	費 用
投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に <u>3.24%(税抜3.0%)を上限</u> として販売会社が定める率を乗じて得た額
換金時	信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に <u>0.3%</u> を乗じて得た額
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎 日	運用管理費用 (信託報酬)	①当該ファンド 信託財産の純資産総額に対して年率1.1664%(税抜1.08%)
		②投資対象とする投資信託証券 組入投資信託証券の純資産総額に対して実質年率0.45%以内
	実質的な負担(①+②)	信託財産の純資産総額に対して年率 <u>1.6164%程度(税込)</u>
その他		純資産総額に対して年率 <u>0.10%を上限</u> として諸費用(監査法人へのファンドの監査に係る費用、法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用等を含みます。)が信託財産から差し引かれます。また、信託財産及び投資対象ファンドにおける組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、管理報酬、対円で為替ヘッジに係る報酬、租税等についても、別途信託財産が負担します。当該費用については、運用状況等により変動するものであり、一部を除き事前に料率、上限額等を表示することができません。

※収益分配金を再投資する際には購入時手数料はかかりません。

※「税」とは、消費税及び地方消費税に相当する金額のことを指します。

※投資者の皆様が負担する費用の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社、その他の関係法人

- 販売会社 当ファンドの募集の取扱い等を行います。投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社にて行います。
販売会社につきましては、委託会社にお問合せ下さい。
- 委託会社 ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号
加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
信託財産の運用指図等を行います。
フリーダイヤル 0120-442-785 (受付時間:営業日の午前9時から午後5時まで) ホームページアドレス <https://funds.deutscheam.com/jp/>
- 受託会社 株式会社りそな銀行 (再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
信託財産の保管・管理等を行います。
なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託することができます。

<ご留意事項>

投資信託のお申込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様ご自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。
当資料はドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成した資料です。当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。データ等参考情報は信頼できる情報をもとに作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。また、使用しているデータについては特段注記のない限り、費用・税金等を考慮しておりません。当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。投資信託は、株式、公社債等の値動きのある証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されるものではありません。投資信託の運用による損益は、投資信託をご購入のお客様に帰属します。投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本及び利息の保証はありません。投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険及び保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。ご購入に際しては、販売会社より最新の投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身で判断して下さい。



DWS ユーロ・ハイ・イールド債券ファンド(毎月分配型)

Aコース(円ヘッジあり)/Bコース(円ヘッジなし)

追加型投信/海外/債券

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

当ファンドの販売会社は以下の通りです。

(五十音順)

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会				備 考
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金)第43号	○				
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金)第633号	○				
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長 (登金)第6号	○		○		
いよぎん証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長 (金商)第21号	○				
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第2251号	○	○	○	○	
SMBCフレンド証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第40号	○			○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第44号	○		○	○	
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金)第3号	○		○		
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第52号	○	○	○		
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第61号	○		○		
株式会社関西アーバン銀行	登録金融機関	近畿財務局長 (登金)第16号	○		○		
株式会社京都銀行	登録金融機関	近畿財務局長 (登金)第10号	○		○		
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金)第5号	○		○		インターネット販売限定
ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長 (登金)第578号	○		○		
第四証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第128号	○				
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商)第20号	○				
ドイツ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第117号	○		○	○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商)第140号	○		○	○	
株式会社東邦銀行	登録金融機関	東北財務局長 (登金)第7号	○				
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長 (金商)第36号	○				
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第121号	○				
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第131号	○		○		
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第1977号	○				
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第152号	○				
ふくおか証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長 (金商)第5号	○				
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第165号	○	○	○		
株式会社三重銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金)第11号	○				
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長 (登金)第5号	○				
株式会社横浜銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金)第36号	○		○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第195号	○	○	○	○	

※静岡銀行、東邦銀行ではBコース(円ヘッジなし)のみのお取扱いになります。

※宮崎銀行ではAコース(円ヘッジあり)のみのお取扱いになります。